

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業知っておきたい話」142回(2面)
- ・熱中症・機械作業事故に要注意—農作業安全対策全国推進会議(3面)
- ・九州地区開拓牛友の会(鹿児島)(4面)
- ・九州開拓青年研修会(佐賀)(5面)
- ・一種類に偏らない草地形成—適切な施肥で収量確保(6面)
- ・和牛・交雑種さらに肉質向上—24年格付頭数(7面)
- ・畜産物需給見通し(8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ <https://www.kaitakusya.or.jp>
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集



事業概況説明会開催 全日本開拓者連盟 全国開拓振興協会

全日本開拓者連盟と 会は3月11日、東京の事務所会議室において、事業概況説明会をそれぞれ開催した。会員等28名うちWeb出席6名が参加した。

- ### 25年度スローガン(案)
- 国内の自給率向上のため、農畜産業の経営安定対策と生産基盤の拡充強化を実現させよう
 - 生産原価を踏まえた適正な価格形成と、国民各層の理解醸成に取り組もう
 - 将来に亘り、担い手が希望を持って再生産できる農業環境を確立しよう
 - 開拓地から国内外の消費地へ、消費者ニーズに応えた安心で新鮮な農畜産物を届け、消費拡大に取り組もう
 - 自然災害・原発被害からの復興・再生を加速させ、早期に経営の再建を成し遂げよう
 - 家畜伝染病から畜産・酪農を守ろう
 - 貿易協定の交渉結果を注視し、開拓営農を守り抜こう

菊地委員長挨拶の後、24年度運動報告、25年度運動方針(案)、主要業務計画(案)などについての説明が行われた。25年度運動の基本方針として、国内農畜産業を守ることを基本に、次のような農政運動を展開する。

○畜産・酪農の経営安定
 定対策と生産基盤の拡充
 ・強化運動○牛肉・豚肉
 ・牛乳製品等国内畜産物の適正な価格転嫁による消費拡大運動○自然災害と経営再建安定化運動○政治活動への支援運動○開拓営農振興のための組織活動の維持・強化運動○貿易協定発効等に係る対応運動。
 また、25年度スローガン案は(図)の通り。
 《全国開拓振興協会》西谷会長挨拶の後、24年度事業実施状況、25年度事業計画及び予算についての説明が行われた。25年度の開拓中央3団体共催の全国開拓青年・女性研修会は、11月下旬

に九州ブロックで開催する予定。これに合わせて、同協会の講演会事業も開催する。

開拓営農振興事業として前年同様、開拓営農に取り組み開拓者の農業経営の持続的な発展・強化を図ることが重要であることから、会員が選択して実施する開拓営農支援対策、開拓営農推進対策等に対して助成を行う。また、同協会が創立50周年を迎えることから、これまでの活動を振り返る50年誌を発行する。なお、海外研修については、農畜産業経営を取り巻く厳しい状況を踏まえ、25年度の実施は見送ることとした。

牛肉購入量は西日本に軍配

東日本の巻き返しに期待

総務省が2月に公表した24年の家計調査報告によると、1世帯当たり(二人)で、1世帯当たり(二人)は2万1321円(前年比99.4%)とほぼ前年並みとなっている。購入量は5529g(同94.5%)と減少している。豚肉は、購入金額が3万3818円(同100.8%)と、やや増加し、購入量は2万1835g

(同99.1%)となった。《牛肉は西日本に軍配》本データを元に、(公財)日本食肉流通センターが「牛肉需付表(24年)」を作成した(表)。1世帯当たりの牛肉購入数量を、県庁所在地及び政令指定都市52都市でランキング付けした(表)。

この結果は、東と西の食文化の違いを表現していると思われる。一概には言えないが、東日本の人々の多くは、「肉といえば豚肉」と思いつくであろう。この慣習はなかなか変わるものではないが、東日本には牛肉の消費拡大の余地があると思われる。逆に言えば、豚肉には西日本に消費拡大の余地がある、ということになる。

生産コスト上昇による値上げ

食肉に関する意識調査 6割が肯定的

(公財)日本食肉消費総合センターは、食肉に関する意識調査結果を発表した。毎年行っている意識調査で、24年10月に首都圏・京阪神圏の20歳以上の1800人から回答を得た。生産コストが高止まりしている中で、生産者サイドから適正な価格形成が求められていることを説明した上で、「高止まりしている生産コスト」による国産牛肉の値上げとあきらめずに、良質な牛肉、豚肉をアピールしていくことが重要だ。

「今後、国産牛肉の販売価格を上げていかなければ、国内の畜産農家の経営が立ち行かなくなると思う」が51.3%となり、農家を想う意見が半数を超えた。

米国への輸出停止解除へ

ランピースキン病ワクチン接種県の牛肉

農水省は3月4日、ランピースキン病ワクチン接種を行う都道府県に措置の解除に合意した。今後、ワクチン接種の有無にかかわらず、全ての都道府県の牛肉について、米国との手続き面で、米国の昨年12月19日以降、ランピースキン病ワクチンの接種を行う都道府県に必要の輸出検査証明書の交付を再開することとした。

なお、3月19日から輸出再開となる。

雪の銀世界でも開拓4世は元気いっぱい



岩手山をバックに、じぶんちの牧草地で元気なポースを決めているのは、壊史花ちゃん(7歳)と隼史くん(4歳)姉弟。滝沢市の鬼越開拓(岩手花平農協)で活躍する、頼もしい開拓4世だ。この地域は、酪農が盛んな標高300~450mの豪雪地帯で、冬は一面の銀世界に覆われる。移動手段で便利なのがスノーモービルで、山でも畑でも、道なき道を自由に走ることができる。もちろん、史花ちゃん達はまだ運転できないが、お父さんもお爺さんも見事に乗りこなしてきた。やがて彼らが、風を切って駆け回る時が来る。

24年 1世帯当たりの牛肉購入数量 都市別ランキング

順位	都市名	購入量(g)	順位	都市名	購入量(g)
1	堺市	8,673	27	富山市	5,788
2	北九州市	8,081	28	金沢市	5,772
3	神戸市	7,899	29	横浜市	5,699
4	大阪市	7,722	30	松江市	5,584
5	松山市	7,590	31	那覇市	5,537
6	福岡市	7,557	32	名古屋市	5,428
7	佐賀市	7,468	33	さいたま市	5,420
8	奈良市	7,371	34	高知市	5,413
9	津市	7,311	35	岐阜市	5,254
10	広島市	7,276	36	鹿児島市	4,813
11	京都市	7,206	37	静岡市	4,785
12	山口市	7,056	38	甲府市	4,740
13	山形市	6,959	39	相模原市	4,570
14	岡山市	6,939	40	川崎市	4,565
15	福井市	6,726	41	青森市	4,238
16	熊本市	6,646	42	札幌市	3,888
17	和歌山市	6,570	43	新潟市	3,766
18	高松市	6,539	44	宇都宮市	3,457
19	東京都区部	6,425	45	浜松市	3,400
20	大津市	6,293	46	福島市	3,335
21	千葉市	6,150	47	水戸市	3,330
22	鳥取市	6,064	48	前橋市	3,297
23	長崎市	6,042	49	仙台市	3,286
24	大分市	5,930	50	秋田市	3,273
25	宮崎市	5,883	51	長野市	3,178
26	徳島市	5,876	52	盛岡市	2,417

※都道府県庁所在地及び政令指定都市52都市での順位
 ※東日本がオレンジ、西日本を水色とした (日本食肉流通センターより)

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

鹿児島県で5年振りの開催

開拓牛友の会九州支部研修会

24年度九州開拓連絡協議会(開拓牛友の会九州支部)が2月13日、鹿児島県鹿嶋市の「ホテル吹上荘」で開催された(写真)。

はじめに、「原料情勢」と題して伊藤忠飼料(株)の安瀬明良氏が講演を行った。米国や中国の動向を中心とした、各国のとうもろこし、大豆の需給動向や輸出動向を紹介し、鹿嶋市畜産試験場の田中和宏氏が講演を行った。

続いて、「鹿児島県における肉用牛振興と今後の方向性」と題して、鹿嶋市畜産試験場の田中和宏氏が講演を行った。

24年度九州開拓連絡協議会(開拓牛友の会九州支部)が2月13日、鹿児島県鹿嶋市の「ホテル吹上荘」で開催された(写真)。

はじめに、「原料情勢」と題して伊藤忠飼料(株)の安瀬明良氏が講演を行った。米国や中国の動向を中心とした、各国のとうもろこし、大豆の需給動向や輸出動向を紹介し、鹿嶋市畜産試験場の田中和宏氏が講演を行った。

続いて、「鹿児島県における肉用牛振興と今後の方向性」と題して、鹿嶋市畜産試験場の田中和宏氏が講演を行った。

24年度九州開拓連絡協議会(開拓牛友の会九州支部)が2月13日、鹿児島県鹿嶋市の「ホテル吹上荘」で開催された(写真)。

はじめに、「原料情勢」と題して伊藤忠飼料(株)の安瀬明良氏が講演を行った。米国や中国の動向を中心とした、各国のとうもろこし、大豆の需給動向や輸出動向を紹介し、鹿嶋市畜産試験場の田中和宏氏が講演を行った。

続いて、「鹿児島県における肉用牛振興と今後の方向性」と題して、鹿嶋市畜産試験場の田中和宏氏が講演を行った。

佐賀県鹿嶋市で研修会

開拓豚友の会九州支部研修会

24年度開拓豚友の会九州支部の研修会が2月28日、佐賀県鹿嶋市の九州地区の開拓豚生産者・開拓農協職員や講師ら15名が参加した。

開会に当たり、平木勇支部長が挨拶を行った。はじめに、「佐賀県内における豚熱の発生と防疫対策について」と題して佐賀県西部家畜保健衛生所の山口博之氏が講演を行った。

23年に同県で発生した豚熱について、防疫作業やワクチン接種などの豚熱対策を解説。佐賀県や長崎県で野生イノシシの陽性個体が確認されていることを、飼養衛生管理基準を遵守しないと手当金が減額されるケースがあることが重要と説明した。

続いて、「養豚情勢報告について(豚枝肉価格見直しなど)」と題して、全開連の石川参与が報告した。

24年は国産豚肉の需要が好調で、相場は高値で推移したが、25年も概ね同様に推移するという予測を紹介。また、カナダ産豚肉の輸入量がアメリカ産を逆転したほか、ブラジル産も急激な伸びを見せており、こうした輸入動向も注視する必要があると解説した。

来年度は長崎県での開催を予定している。



24年度開拓豚友の会九州支部の研修会が2月28日、佐賀県鹿嶋市の九州地区の開拓豚生産者・開拓農協職員や講師ら15名が参加した。

開会に当たり、平木勇支部長が挨拶を行った。はじめに、「佐賀県内における豚熱の発生と防疫対策について」と題して佐賀県西部家畜保健衛生所の山口博之氏が講演を行った。

23年に同県で発生した豚熱について、防疫作業やワクチン接種などの豚熱対策を解説。佐賀県や長崎県で野生イノシシの陽性個体が確認されていることを、飼養衛生管理基準を遵守しないと手当金が減額されるケースがあることが重要と説明した。

続いて、「養豚情勢報告について(豚枝肉価格見直しなど)」と題して、全開連の石川参与が報告した。

24年は国産豚肉の需要が好調で、相場は高値で推移したが、25年も概ね同様に推移するという予測を紹介。また、カナダ産豚肉の輸入量がアメリカ産を逆転したほか、ブラジル産も急激な伸びを見せており、こうした輸入動向も注視する必要があると解説した。

来年度は長崎県での開催を予定している。



24年度開拓豚友の会九州支部の研修会が2月28日、佐賀県鹿嶋市の九州地区の開拓豚生産者・開拓農協職員や講師ら15名が参加した。

開会に当たり、平木勇支部長が挨拶を行った。はじめに、「佐賀県内における豚熱の発生と防疫対策について」と題して佐賀県西部家畜保健衛生所の山口博之氏が講演を行った。

23年に同県で発生した豚熱について、防疫作業やワクチン接種などの豚熱対策を解説。佐賀県や長崎県で野生イノシシの陽性個体が確認されていることを、飼養衛生管理基準を遵守しないと手当金が減額されるケースがあることが重要と説明した。

続いて、「養豚情勢報告について(豚枝肉価格見直しなど)」と題して、全開連の石川参与が報告した。

24年は国産豚肉の需要が好調で、相場は高値で推移したが、25年も概ね同様に推移するという予測を紹介。また、カナダ産豚肉の輸入量がアメリカ産を逆転したほか、ブラジル産も急激な伸びを見せており、こうした輸入動向も注視する必要があると解説した。

来年度は長崎県での開催を予定している。



最優秀賞を受賞する(株)荒木畜産の荒木和宏さん

肥後開拓農協共進会

肥後開拓農協共進会

肥後開拓農協は2月21日、熊本県錦町のゼンカIMIT(株)で、24年度共進会を開催した。今回は組合員10戸から、交雑去勢牛がそれぞれ1頭ずつ出品された。

格付・審査の結果、最優秀賞は、(株)荒木畜産の出品牛で、生後24・9ヵ月齢、種雄牛「秋忠平」、枝肉重量601・9kg、ロース芯面積68cm、バラ厚9・0cm、BMS No.8、格付A5、歩留基準値72・3だった。

審査委員長は「ロース芯も大きく、肉付き及び切開面のバランスも良く、申し分ない枝肉だった」と講評した。

出品生全体の成績は、平均枝肉重量591・7kg、肉質4等級以上比率100%と、非常に優秀な成績となった。各測定値の平均は、ロース芯面積59・5cm、バラ厚8・5cm、BMS No.6・3、歩留基準値70・7だった。入賞牛の出品者は次のとおり。

最優秀賞 (株)荒木畜産 藤田寛
優秀賞 藤田寛

「開拓記念碑」調査まとめ

全国の開拓地の350基掲載

(公社)全国開拓振興協会は、2016年から全国の会員などとともに開拓記念碑の調査を実施してとりまとめた。

全国の開拓碑約350基を掲載している。また、今後も開拓碑の調査は継続する。本書は3月中旬に各会員に配布される。



3月下旬から4月に予定されている開拓組織の主な行事は次のとおり。

3月
19~20日 東北開拓組織連絡協議会研修会(岩手)
21日 三瓶開拓酪農協通常総会(島根)
28日 千葉酪農農協通常総会(千葉)

4月
18日 那須管根酪農協通常総会(栃木)
24日 栃木県開拓農協通常総会(栃木)

土壌適さず、畜産に活路を

佐賀県玄海町・値賀開拓

佐賀県玄海町の値賀開拓は、県北部に突き出た東松浦半島の西側に位置する。標高180mで、地質は玄武岩・粘土質の強酸性で、畑作にはあまり適していない。解放地に、1戸当たり1ha余の配分を受けた。い

46年に引揚者や地元の開墾だったので、大変な苦労となった。最初に作付けたのは、さつまいも、じゃがいも、菜種、大根などが、強酸性土壌のため収穫は少なかった。

50年には農村工業として、精米・製粉を行い、素麺も作った。地区外からの利用者も多く、大繁盛したこともあった。また、この年に電気が開通し、皆で涙を流して喜びあった。

60年頃には、これまでの作物だけでは経営を確立することができないので、梨・みかんを植栽した。しかし、玄海灘から吹きつける風により、品質が悪かった。

また、北海道から乳牛17頭を導入し、17戸に分配して経営の安定を図った。その後、増頭を重ね、酪農団地として県内外から注目を浴びるようになった。

76年時点で、酪農家5戸、肉牛2戸、養豚3戸、養鶏1戸、みかん農家3戸、畑作1戸となった。

96年、栄公民館敷地内に「栄区50周年記念碑」が建てられた。栄区の由来として記念碑には「一畝、一畝山林原野を切り開き、眠れる大地を開墾する偉業を為し、村の発展を期して(栄村)と命名し(抜粋)とある。現在も肉牛農家が頑張っており、この地を守っている。



開拓組織の動き

3月下旬から4月に予定されている開拓組織の主な行事は次のとおり。

3月
19~20日 東北開拓組織連絡協議会研修会(岩手)
21日 三瓶開拓酪農協通常総会(島根)
28日 千葉酪農農協通常総会(千葉)

4月
18日 那須管根酪農協通常総会(栃木)
24日 栃木県開拓農協通常総会(栃木)

佐賀県畜産試験場(武雄)で視察研修 24年度九州開拓青年研修会



真剣な面持ちで見学する参加者ら

24年度九州開拓青年研修会が3月7～8日の両日、佐賀県武雄市の佐賀県畜産試験場で開催された。九州各県から若手の開拓農家らを中心とした生産者、開拓農協職員や講師ら29名が参加した。開会に当たり、主催者である九州開拓青年

部連絡協議会の重松英利会長と九州開拓連絡協議会の井上富男会長がそれぞれ挨拶を行った。

その後、「畜産試験場の取組」と題して、佐賀県畜産試験場副場長の陣内孝臣氏が講演を行った。

同試験場が取り組んでいる、種雄牛の作出や、豚も含めた飼養管理技術の開発研究、ふん尿の処理技術などに関する試験や研究が紹介された。中でも、同試験場の一押しの研究成果として、「候補種雄牛精液の耐凍性向上及び乗駕欲改善」と「アミノ酸比率法に基づく高CP・低メリジン飼料給与により全体の約88%が霜降り豚肉となる」の2つのテーマが紹介された。



哺乳ロボット見学

講演の後参加者は、同試験場大動物部部長の片渕直人氏の案内で、場内を見学した。哺育牛舎の哺乳ロボットや、TMR給与試験中の牛の様子などを真剣な面持ちで見学をしていた。

日本なし・ぶどうは減少、ももは前年並 24年産収穫量調査

農水省は、2月18日に「24年産日本なし、ぶどうの結果樹面積、収穫量及び出荷量」を、1月28日に「24年産ももの結果樹面積、収穫量及び出荷量」をそれぞれ公表した。

【日本なし】

日本なしの結果樹面積は、高齢化などによる規模縮小や廃園などで、前年産に比べ250ha(3%)減少し、9570ha

となった。10a当たり収量は、猛暑によって小玉傾向となったほか、日焼け果の発生による収量減少もあり、70kg(4%)減少し、1800kgだった。収穫量は1万700t(6%)減の17万2700t、出荷量は9800t(6%)減の16万2000tとなった。都道府県別の収穫量割合は、千葉県が12%、茨城県が10%、福島県が9%、栃木県が8%、

長野県が7%となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

【ぶどう】

ぶどうの結果樹面積は前年産より100ha(1%)減少し、1万6300haだった。10a当たり収量は、10kg(1%)下回り、1010kgとなった。収穫量は2400t(1%)減の16万4600t、出荷量は2100t(1%)減の15万4600tだった。都道府県別の収穫量割合は、山梨県が26%、長野県が20%、岡山県と山形県が9%、福岡県が4%となっており、

5県で全国の約7割を占めている。

【もも】

ももの結果樹面積は前年より70ha(1%)減の9190haだった。10a当たり収量は10kg(1%)増の1190kgだった。収穫量は前年産並みで10万9700t、出荷量は700t(1%)増の10万2600tとなった。都道府県別の収穫量割合は、山梨県が29%、福島県が27%、長野県が10%、山形県が9%、和歌山県が5%となっており、この5県で全国の8割を占めている。

病害虫抵抗性強い品種「かなえまる」 標準作業手順書公開

農研機構は11月、緑茶用新品種「かなえまる」の標準作業手順書を公開した。現在、日本で一番多く栽培されている緑茶用品種は「やぶきた」である。同種は主要病害である炭疽病、輪斑病などが発生しやすく、また難防除害虫である「クワシロカイガラムシ」が多発すると、成育が著しく劣り枯死に至る。大規模化した生産現場では、病害虫に弱い品種が栽培面積の大部分を占めていると効率的な管理が難しくなるため、主要な病害虫に抵抗性がある品種を取り入れて防除回数を減らすなどの

工夫が必要になる。こうした現状から、農研機構ではこれまでに主要病害に抵抗性がある「さえあかり」など3品種を育成している。これらの品種は病害虫の発生が少なく、収量や品質が一定以上であるものの、早生、やや早生の品種のため、中生で病害虫抵抗性のある品種育成が望まれていた。新品種の「かなえまる」は、病害虫への抵抗性が強いだけでなく(表)、中生品種であり、近年拡大している被覆栽培にも適した品種で、多く

表 I-5 「かなえまる」と比較品種の病害虫抵抗性

品種名	炭疽病	輪斑病	赤焼病	もち病	クワシロカイガラムシ
かなえまる	やや強	強	弱	やや強	強
やぶきた	弱	弱	弱	やや弱	弱
さえみどり	中	弱	弱	-	弱
おくみどり	極弱	中	強	-	弱

農研機構の資料から

の茶産地への導入が期待されている。かなえまるの導入により、主要病害虫への抵抗性を有しているため、化学農薬の使用量を低減できるほか、耐寒性が強いことから、冷涼地から中山間地を含む全国の主要な茶産地で広く栽培が可能となっている。高い病害虫抵抗性に加え、中生で収

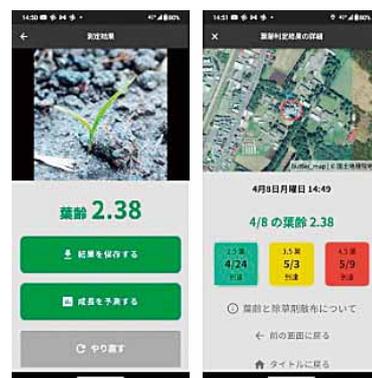
量が多く製茶品質も優れることから、「やぶきた」に置き換わる品種として期待されている。手順書では、「かなえまる」の基本特性、栽培管理方法や各茶種への加工特性、苗の入手方法などについて紹介している。手順書は農研機構ホームページで公開されている。

ノビエの葉齢をスマホアプリで判定 乾田直播栽培で効果的防除

水稻の乾田直播栽培の雑草対策では、水稻の出芽から入水前までの乾田期に、主要な水田雑草であるノビエの葉齢が大きくなりすぎないうちに除草剤を散布することが推奨される。水稻用の除草剤のラベルには「ノビエ〇葉期」と使用時期が記載されており、使用する際に葉齢は重要な基準となる。しかし、水稻が出芽する時期は気温が高く、ノビエはすぐに生長してしまうため、効率的に葉齢判定と生長予測を行う技術が求められていた。

そこで農研機構は、誰でも簡単にノ

ビエの葉齢を判定し、その後の生長も予測できるアプリを開発した(写真)。アプリでは、画像解析によって、水田に生えているノビエの写真から葉齢を判定する。さらに、ほ場付近のアメダス情報をもとにその後の生長を予測し、2.5葉期、3.5葉期、4.5葉期に達する日も予測できる。そして、アプリで示される生長の予測結果から、除草剤の



葉齢判定(左)と生長予測(右)の結果を示した画面例 農研機構の資料から

散布時期を計画することができる。アプリは Google Play または App Store で「ノビエ」と検索、または QR コードのページよりダウンロードすることで利用できる。

24年産荒茶生産量 2%減 摘採面積も2%減

農水省は2月18日、「24年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量(主産県)」を公表した。

主産県の茶の摘採実面積は2万6700haで、500ha(2%)減少した。生葉収穫量は31万9300tで前年産並みとなった。荒茶生産量は6万6900tで1100t(2%)減少した。

主産県別にみると、荒茶生産量において鹿児島県が初めて首位に立った。なお、鹿児島県、静岡県、三重県の3県で全国の荒茶生産量の9割近くを占めている。

一種類に偏らない草地形成 適切な施肥で収量確保

雪印メグミルク(株)酪農総合研究所は1月30日、「今こそ飼料の国産化を！PartⅢ～次の一手を考える～」と題して24年度の酪総研シンポジウムを開催した。温暖化の影響により収量が不安定となっている日本の自給飼料について、安定的に生産を続けていくための対策が共有された。ホクレン農業協同組合連合会の岩淵慶氏による「チモシー一辺倒からの転換が今こそ必要～ヨーロッパに学ぶ具体的手法～」と題した発表の内容を紹介する。

◇猛暑でチモシーが雑草に負ける

現在、北海道で栽培されている牧草はチモシーが多いが、草地全体の半分

程度に、地下茎型の雑草や裸地が広がっている。現在のチモシーに偏った生産体系では、安定した品質の自給飼料が得られていないことを紹介した。

◇分けつを理解し適切な施肥を

この状況を改善するためには、早春の施肥が重要と強調した。一番草はチモシーで年間収量の70～80%、オーチャードグラスで40～50%を占め、早春の施肥が遅れるほど収量が減少する。また、「分けつ(茎)」の仕組みを理解することの重要性を訴えた。チモシーなどのイネ科牧草は1本1本の分けつの集合体であるため、植物としては多年草だが、個々の分けつには寿命が

北海道におけるチモシー以外のイネ科草種も用いた事例

	I 牧場	F 牧場
混播草種	チモシー主体 オーチャードグラス メドウフェスク アルファルファ シロクローバ	チモシー主体 オーチャードグラス メドウフェスク アルファルファ
多草種混播のメリット	○天候不良に対処するため ○夏に生育が劣るチモシーをカバーし、2番草が多収となる ○イネ科を多草種混播するとTDNが高くなるため	○天候不良への対応 ○チモシーが干ばつや機械踏圧で衰退するため ○競合力の強い草種を混播することで、強雑草の侵入が少なくなりつつあると感じている



岩淵氏の発表資料から

ある。次世代の分けつが最も多く発生するタイミングの、チモシーは1番草収穫後、オーチャードグラスでは2番草収穫後の追肥も重要だと訴えた。

◇欧州型を取り入れ対策

近年気温は右肩上がり、北海道で「蝦夷梅雨」と呼ばれる6月以降の長雨も発生している。チモシーのみの草地から、競合力や暑さに強い草種を取り入れた「草地の多様化」が推奨される。現在、チモシー以外のイネ科牧草

を混播した草地の実証を始めた。

北海道と比較的気候が似ている欧州では多草種混播により、安定した収量が確保できていると紹介した。

世界の中でも北海道の気候は非常に厳しく、寒いだけでなく、雨も多い。そのため、欧州の作付け体系をそのまま導入することはできないが、試行錯誤を繰り返し、北海道型の多様性を持たせた混播の組み合わせを模索することが大切だと訴えた。

1ブロック南の地域の作付を視野に 温暖化の中での飼料確保

同シンポジウムで雪印種苗(株)の佐藤尚親氏は「温暖化に対応する自給飼料生産技術」と題し、温暖化対策を念頭に、草地構成の取り組みを発表した。

◇1ブロック南の地域の草地念頭に

23・24年の帯広市の夏の気温は、10年前の埼玉県所沢市の気温になっていることを紹介。このように、温暖化の影響で気温帯が北上していることに対応した自給飼料の作付体系の見直しの必要性を強調。北東北ではオーチャー

ドの夏枯れも発生しており、今後、北海道での発生も懸念されている。

夏枯れ対策として、被害程度に応じてA(部分的に枯死)・B(全面的に枯死)・C(夏枯れ後ヒエ等種子落下)の3タイプに分け、タイプB・Cでは飼料用ライ麦の秋播種を行うことで飼料を確保することを提案した。

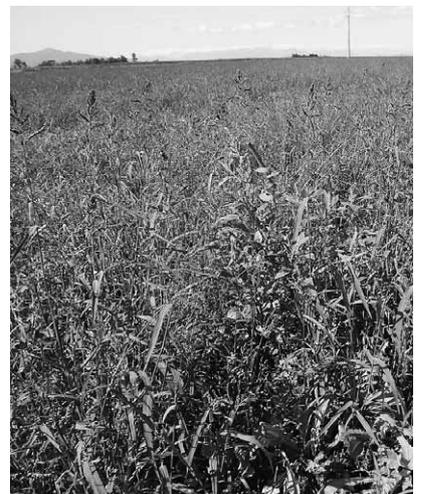
◇病気・虫・雑草全てが北上

チモシーは干ばつの影響も受けやすいが、高刈りをすれば牧草として利用

でき、再生も期待できる。アルファルファ・チモシー混播草地では低い刈り取りをすると、夏枯れに耐えられず枯死すると注意喚起した。

九州で多発していた南方サビ病が24年に東北で発生した事例や、全国に広がるツマジロクサヨトウの被害、繁茂するアレチウリの例を示し、病気・虫・雑草全てが北上していることを紹介した。特に虫は温暖化により繁殖回数が増えており、被害が拡大している。

ワルナスビの対策にスーダングラスを栽培する方法を紹介したほか、北海道でも6月末～7月末にソルガムを播いて育ったことを報告した。



夏枯れタイプC チモシー夏枯れ後にヒエが優占した草地(北海道十勝地域、2023年9月7日)

佐藤氏の発表資料から

モヤシ残さを飼料原料に 乳量・乳質に支障なく利用可能

モヤシは加工された状態でスーパーなどで売られているが、その製造工程で生じる皮や根、折れたモヤシなどの残さは製造量全体の約2割に達し、これらは全て廃棄されている。

石川県農林総合研究センター畜産試験場では、廃棄処分されるモヤシ残さを使った発酵TMRを作製し、給与試験を行った。

☆試験方法：金沢市内のモヤシ製造工場で排出されたモヤシ残さ(緑豆、種皮、根、子葉部、折れたもの)を使用した。原料をショベルローダーで混ぜた後、細断型ロールペーラーで成型後ラッピングして約6ヵ月間野外で保存した。

ホルスタイン種搾乳牛6頭を「試験区」、「対照区」に3頭ずつ2群に分けた。予備試験期間10日間、本試験期間4日間を1期間として3期間、反転試験法で実施した。対照区は原物で慣行飼料(自家配合飼料、アルファルファハイキューブ、チモシー乾草)を23～33kg、試験区は同慣行飼料を16～24kgと発酵TMR15～20kgを給与した。

試験区は対照区の乾物29%相当量を発酵TMRで置き換え、表1の割合で配合し、モヤシ残さはTMRの49%とした。調査項目は、乳量・乳成分・血液検査とした。

☆結果：給与後の乳量・乳質の成績は表2のとおりで、対照区と有意差は

みられなかった。血液性状も有意差はみられなかったことから、モヤシ残さは、飼料原料として有用であることが示唆された。



モヤシ残さ



発酵TMRの調整

なお、モヤシ残さは腐敗が早いので、夏場の高温下では嗜好性の低下が懸念

されることから、開封後は速やかに給与することに注意が必要となる。

ルーメン内メタンも抑制 生のモヤシ残さ給与

24年6月、秋田県立大学の山中麻帆助教が日本畜産環境学会で発表した「牛へのモヤシ残さ給与がルーメン内メタン生成量に与える影響」について、奨励賞を受賞した。

☆生のモヤシ残さを利用：モヤシ残さにはポリフェノールが多く含まれていることから、ルーメン由来メタンの生成量を抑制する可能性があるが、モヤシ残さ給与とルーメン内メタン生成量に関する研究報告はほとんどなかった。そこで、低コストで持続可能な飼料利用のため、モヤシ残さの排出頻度から、生の状態でのモヤシ残さの利用

の可能性について検討を行った。

☆試験方法と結果：モヤシ残さを与える「給与区」と与えない「対照区」の2区を設定。ホルスタイン種雌6頭を各区3頭ずつ、両区の牛を入れ替えて2回試験を行った。給与区では、1日1頭当たり2kgのモヤシ残さを朝に給与。調査項目は、ルーメン内pHやメタンなどのガス濃度などとした。

ルーメン内pHには有意差はなく、植物のタンパク質などを利用する微生物の数を示す「プロトゾア数」は、給与区で高かった。また、メタン発生量は給与区で低かった。牛へのモヤシ残さの給与は、ルーメン内での飼料消化性を損なわずにメタン生成量を抑制できる可能性があるとしている。

表1. 発酵TMRの配合割合

	(%)
モヤシ残さ	49
チモシー乾草	12
自家配合飼料	14
イネWCS	25

表2. 乳質及び乳量

	乳タン	乳中尿素	乳脂肪	乳糖	無脂乳	乳量
	バク質	窒素	(%)	(%)	固形	(kg/日)
	(%)	(mg/dl)	(%)	(%)	(%)	(kg/日)
対照区	3.5	6.6	4.6	4.4	8.9	27.5
試験区	3.5	6.1	4.6	4.4	8.9	27.6

写真・表全て石川県農林総合研究センター畜産試験場の資料から

和牛・交雑種さらに肉質向上 24年格付頭数 牛増加、豚減少

(公社)日本食肉格付協会は24年(1~12月)の牛・豚枝肉格付結果を公表した。牛全体の格付頭数は前年と同様に増加した。

〈牛枝肉〉

交雑種去勢の肉質3等級以上の比率は前年に続いて70%を超え、4等級の割合は前年より3.6%も上昇している。和牛去勢のA5比率は前年よりも増加し、7割も目前に迫る勢いだ。両品種ともに肉質等級の向上がみられる。

牛全体の格付頭数は94万2866頭で、前年より1万6728頭(1.8%)増加した。内訳を見ると、交雑種(雌雄含む)が1.7%減、和牛(同)が7.3%増、乳用種(同)が4.8%減となっている。和牛の格付頭数増加が続く一方、交雑種は減少に転じ、乳用種は減少傾向が続いている。

主な品種の性別の格付結果をみると、交雑種去勢の格付頭数は前年比2.3%減の12万7194頭だった。肉質3等級以上比率は3.0%増の75.2%で、うち4等級以上は4.0%増の29.4%。特に4等級の格付頭数が大幅に増加した。歩留まりは、A等級が2.5%増の12.6%、B等級が0.3%増の71.6%、C等級が

2.8%減の15.8%となった。全国の枝肉平均重量は541.2kgだった。

交雑種雌の格付頭数は1.1%減の11万3908頭。肉質3等級以上比率は2.2%増の71.7%で、うち4等級以上は2.5%増の28.2%。歩留まりをみると、A等級が3.6%増の21.9%、B等級が0.6%増の67.6%、C等級が2.9%減の10.6%となっている。

和牛去勢の格付頭数は3.3%増の27万7571頭に増加した。4等級以上比率は1.8%増の92.5%で、うち4等級は2.3%減の24.9%、5等級は4.1%増の67.6%となった。5等級の増加傾向が続いている。歩留まりは、A等級が0.7%増の97.5%、B等級が0.8%減の2.2%となった。また、全国の枝肉平均重量は513.8kgだった。

和牛雌の格付頭数は12.2%増の24万5247頭だった。この大幅な増加は、子牛価格の低迷を背景とした、繁殖雌牛の更新事業などによって母牛の更新が進んだことによるものとみられる。4等級以上比率は1.6%増の71.9%で、うち4等級は0.5%減の24.5%、5等級は2.1%増の47.4%となった。

酪農家での性選別精液(乳雌)の利

2024年1~12月 牛枝肉格付結果

		等級					計	頭数
		5	4	3	2			
交雑去勢	A	1.3 0.4	6.0 1.4	4.2 0.6	1.1 0.1	12.6 2.5	16,054.0 2,924.0	
	B	1.2 0.1	18.9 2.3	34.0 △0.4	17.5 △1.6	71.6 0.3	91,103.0 △1,667.0	
	C	0.0 △0.1	2.0 △0.1	7.6 △1.2	6.0 △1.5	15.8 △2.8	20,037.0 △4,222.0	
	計	2.5 0.4	26.9 3.6	45.8 △1.0	24.6 △3.0		127,194.0 △2,965.0	
	交雑めす	2.5 0.5	9.4 1.4	7.6 1.3	2.3 0.3	21.9 3.6	24,926.0 3,808.0	
交雑めす	B	1.0 0.1	14.3 0.6	31.3 △0.5	20.9 △0.8	67.6 △0.6	76,960.0 △1,626.0	
	C	0.0 同	1.0 △0.1	4.6 △1.1	4.6 △1.6	10.6 △2.9	12,022.0 △3,491.0	
	計	3.5 0.6	24.7 1.9	43.5 △0.3	27.8 △2.1		113,908.0 △1,309.0	
和牛去勢	A	67.2 4.2	24.1 △2.0	5.3 △1.4	0.9 △0.2	97.5 0.7	270,714.0 10,537.0	
	B	0.4 △0.1	0.8 △0.3	0.5 △0.3	0.5 △0.1	2.2 △0.8	6,266.0 △1,722.0	
	計	67.6 4.1	24.9 △2.3	5.8 △1.7	1.4 △0.3		277,571.0 8,792.0	
和牛めす	A	47.0 2.2	23.1 △0.4	9.4 △0.2	5.4 △0.4	84.9 1.2	208,205.0 25,234.0	
	B	0.4 △0.1	1.4 △0.1	3.0 0.3	7.6 △0.6	12.8 △1.0	31,438.0 1,364.0	
	計	47.4 2.1	24.5 △0.5	12.4 0.1	13.0 △1.0		245,247.0 26,753.0	

上段：24年等級別割合 下段：対前年増減率、△はマイナス

(公社)日本食肉格付協会の資料を基に作成

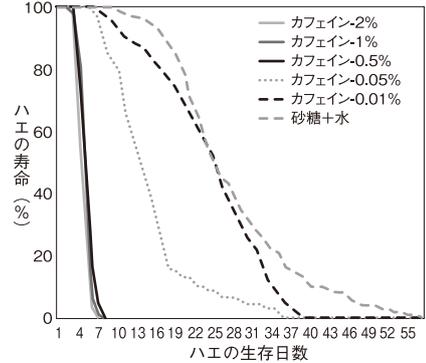
用割合の増加などに伴い、乳用雄子牛の出生頭数は減少傾向が続いている。こうした背景から、乳去勢の格付頭数は4.3%減の12万2153頭で、3等級以上比率は増減なしで3.4%だった。また、全国の枝肉平均重量は449.3kgだった。

〈豚枝肉〉

0.5%より高濃度のカフェインを飲ませると、7日以内でほぼ死滅することがわかった(図)。

カフェインは自然界にも存在する物質であり、過剰摂取しなければ、化学農業よりも人体に与える影響は少ない

濃度を変えたカフェインを飲ませたヒロズキンバエの寿命



岡山大学の資料から

24年の豚枝肉の総格付頭数は1244万541頭で、20万6512頭(1.6%)減少した。22年から3年連続で減少している。等級別にみると、極上が1.2%(同)、上が51.7%(0.7%減)、中が32.3%(0.4%増)、並が11%(0.2%増)、等外が3.7%(同)だった。

と考えられている。これまでもカフェインの散布が、害虫の発育や寿命に与える影響が調べられてきたが、効果については実験により結果が異なっていた。

砂糖水にカフェインを混ぜて飲ませる方法で、顕著な寿命短縮効果が認められた。今後、カフェインを害虫に与える方法の工夫次第では、農業害虫や衛生害虫の殺虫に活用できる可能性が期待できるとしている。

乳用種のための発動継続 牛マルキン1月分

農畜産業振興機構は3月12日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の交付金単価(25年1月分、概算払い)を公表した。

乳用種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。肉専用種は16都道府県で発動した。今月も交雑種での発動はなかった。

交付金単価(1頭当たり)は、乳用種は4万6328.6円(前月は4万308.6円、確定値)となっている。

前月分と比べ、枝肉市場価格の上昇により販売価格が増額したものの、素畜費が大幅に上昇したことから、交付金単価は増額となった。

カフェインの殺虫効果でハエ退治 寿命短縮 7日以内に全滅

カフェインにはドーパミンを活性化させる作用があり、人の気分を高揚させる働きがあることが知られている。昆虫も同様で、少量のカフェインがミツバチの記憶力を向上させたり、延命効果が見られたりするため、花粉媒介昆虫にとってプラス効果があることがわかっている。

一方、高濃度のカフェインを昆虫に与えると、発育抑制や、寿命に対する負の効果が得られた報告もある。これまでの研究では、昆虫に対する効果が実験によって異なり、害虫防除に対する効果についても、結果にはばらつき

があった。

そこで、岡山大学の研究グループは、ヒロズキンバエにカフェインを砂糖水に混ぜて飲ませ、寿命・活動量・脂質に与える影響を調べた。まず、濃度を変えた砂糖水をハエに飲ませた予備実験では、4%濃度の砂糖水を与えると寿命が長くなることが分かった。

次に、4%濃度の砂糖水にそれぞれ異なる濃度のカフェインを混ぜ、成虫に飲ませる実験を行ったところ、0.5%以上の濃度のカフェインを含んだ砂糖水には強い殺虫効果が認められた。ハエの平均寿命は通常30日程度だが、

肥育牛の血液で将来の枝肉形質予測 近畿大学のAIビーフ技術

畜産飼料の海外依存度が高い日本では、近年の物価高や円安状態により肉用牛の生産コストが増加して経営を圧迫している。さらに、個体差(成長のばらつき)があるため、同じコストを掛けた牛でも出荷時の単価が異なることも経営圧迫の要因となっている。

近畿大学生物理工学部の松本研究室は、22年に「AIビーフ技術」を世界

で初めて開発した。この技術は、肥育中の牛からわずかな量の血液を採取し、血液中の135種類のたんぱく質の情報量をAIで分析することで、出荷時期のサシの状態や、枝肉の重量、口溶けや風味に影響するオレイン酸含有量などを予測することが出来るものだ。

昨年12月、同研究室は同技術を用いた枝肉形質予測診断サービスを提供す

る、(株)ビーフソムリエを設立した。

同社によると、出荷の1年以上前に将来の枝肉形質を調べることが出来るため、肥育途中での肉質改善や飼料コストの削減が可能になり、生産性の向上や経営の安定化につながるという。

また、ブランド牛の特徴をデータから可視化することが出来るため、他のブランド牛との差別化ができるほか、品評会等に出品する個体の選択にも役立てられるとしている。

「値段のないスーパーマーケット」開催 増大するコストと適正価格の理解求める 千葉酪農農協が牛乳を出品

農水省の主催によるポップアップイベント、『値段のないスーパーマーケット—みんなにとって「フェアな値段」を考えよう—』が、2月20～23日まで東京駅近くのKITTE丸の内1階アトリウムで開催された。同イベントには千葉酪農農協が牛乳を出品



る「千葉酪農3.6牛乳」も出品された。食品の生産・流通コストが上昇している中で、持続可能な食料供給の実現に向け、消費者が生産・流通・販売にまつわるコストを学び、食品の適正な価格を考えるきっかけを提供するために企画された。

ブース内に出品されている牛乳や豆腐などには値札がない。代わりに、生産者や流通業者が置かれている厳しい実態がパネルで紹介されていた。牛乳のパネルでは、乳牛の飼料費やあらゆる資材費が高騰していることや、酪農家のうち半数以上が離農を検討してい



千葉酪農のブースで、パネルに酪農の厳しい現状を訴えている

る現状など、生産者が置かれた厳しい状況が紹介されていた。

商品の購入希望者は、レジコーナーで自分が適正と思う価格を入力し、購入する仕組み。4日間の総来場者数は

8,200名で、参加者からは、「安ければ安い方がいいと考えていたが、イベントを通して適正価格について考える良いきっかけになった」などの感想が寄せられていた。

牛枝肉

万博開催が迫るも、動きは様子見の状況

大阪・関西万博の開催が4月に迫り、インバウンド需要を含めた消費拡大が期待されるが、今のところ目立った動きは無く、様子見の状態となっている。

乳用種は底堅い動きとみられるが、交雑種はもちあいが予想される。

【乳去勢】2月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、1109円(前年同月比131%)となり、前月より37円上がった。

3月も頭数は減少傾向にあり、相場も底堅い動きと見られる。

【F1去勢】2月の東京食肉市場の交雑種去勢の税込み枝肉平均単価は、B3が1529円(同99%)、B2が1380円(同98%)だった。前月に比べ、B3が6円増、B2は6円減と、もちあい

での推移となった。

3月に入っても、B3で1500円台、B2も1400円台中ごろのおとなしい推移となっている。

【和去勢】2月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2290円(同102%)、A3が2121円(同103%)だった。前月に比べ、A4が56円、A3は48円ともに上昇した。

2月初旬は、A4で2300円台にやや持ち直したが、不需要期でもあり、今後は弱もちあいか。

【出荷頭数】3月の出荷頭数は、和牛4万600頭(同97%)、交雑種2万1600頭(同103%)、乳用種2万4200頭(同93%)と、交雑種以外は減少する見込み。

【輸入量】農畜産業振興機構は3月の冷蔵・冷凍品の輸入量を総量で3万1000t(同81%)と予測。内訳は、冷蔵品1万4400t(同79%)、冷凍品が

1万6600t(同82%)。冷蔵・冷凍品ともに前年を大幅に下回ると予測される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が1050～1150円、F1去勢B4が1550～1650円、同B3が1500～1600円、同B2が1350～1450円、和牛去勢A4が2250～2350円、同A3が2100～2200円での推移か。

豚枝肉

春の観光シーズンを迎え、相場は強もちあいか

2月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物が620円(前年同月比104%)、中物は595円(同104%)となった。前月に比べ上物が23円、中物も19円増と、それぞれ持ち直してきた。

3月に入っても、600円台前半をキープしている。これから、歓送迎会や花見の需要が期待され、比較的需要は堅調な動きとなりそう。600円の強もちあいか。

素牛

スモールは頭数減少の影響が表れ、強含みに

【スモール】2月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳雄が4万2173円(前年同月比91%)、F1(雄雌含む)は15万8852円(同177%)と、前月に比べ、乳雄は1万4829円増、F1は4万6844円増と、ともに急騰した。

北海道でも市場によりバラツキがあり、乳雄で5万円を超える市場も出てきた。頭数の減少が大きく影響するようになってきた。

F1も頭数減の影響と、枝肉相場が比較的安定していることもあり、強含みの展開となりそう。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、3月は145万頭(前年同月比106%)と、前年をやや上回る予測。これは前年が少なかつたからで、出荷頭数は平年並みと予想される。

農畜産業振興機構の需給予測によると、3月の冷蔵・冷凍品の輸入量は総量で7万5600t(同

102%)と、前年よりやや増加する見込み。内訳は、冷蔵品3万2400t(同95%)、冷凍品4万3200t(同107%)。冷凍品は、価格優位性によるブラジル産などの輸入量の大幅な増加が引き続き見込まれる。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が580～680円、中物も550～650円と、強もちあいの展開となるか。

【乳素牛】2月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が19万6393円(同112%)、F1去勢は4万8144円(同107%)だった。前月に比べ乳去勢は1万54円減、F1去勢は5282円上昇した。

乳去勢・F1去勢ともに、スモール同様、今後頭数はひっ迫傾向となると予想される。

【和子牛】2月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格(同)は、65万9702円(同105%)で、前月より4万6724円増と、急騰した。

枝肉相場が軟調なこともあり、これ以上の上昇の可能性は少ないが、乳去勢ほどではないが頭数減が見込まれるので、予断を許さない状況となる。

2月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	402	325	285	294	196,957	208,357	690	708
	F1去	1,841	1,670	334	338	403,042	403,296	1,207	1,193
	和去	2,224	2,256	336	339	673,585	646,356	2,005	1,907
東北	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	1	1	197	389	216,700	308,000	1,100	792
	和去	2,217	2,118	323	320	623,857	594,417	1,933	1,857
関東	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	138	124	341	356	400,567	392,398	1,173	1,104
	和去	939	758	323	329	659,199	659,161	2,040	2,003
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	81	-	299	-	634,170	-	2,121	-
東海	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	40	32	294	309	379,005	371,113	1,289	1,200
	和去	222	459	276	286	606,932	631,922	2,195	2,209
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	359	375	261	268	1,098,636	1,027,368	4,209	3,827
中四国	乳去	8	12	280	275	168,025	154,733	599	562
	F1去	192	204	325	331	424,251	392,932	1,306	1,188
	和去	502	663	311	309	625,613	609,624	2,013	1,974
九州・沖縄	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	189	216	312	322	454,201	419,721	1,456	1,303
	和去	5,527	7,261	300	299	645,846	580,933	2,151	1,941
全国	乳去	410	337	285	294	196,393	206,447	689	703
	F1去	2,401	2,247	331	336	408,144	402,832	1,233	1,199
	和去	12,074	13,892	312	310	659,702	612,978	2,114	1,977

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。